

# 平成27年春の叙勲・褒章受章者

4月29日に叙勲受章者、4月28日に褒章受章者が発表され、以下の会員が榮に浴されました。  
心よりお慶び申し上げます。

## 叙勲受章者の横顔



### 旭日双光章（弁理士業務功労）

なか むら しげ のぶ  
中 村 茂 信

#### 学歴・職歴

昭和35年 国立諺問電波高校本科 卒業  
昭和46年 近畿大学通信教育部法律学科 卒業  
(現在) 間宮特許事務所

#### 弁理士会歴

昭和54年 弁理士登録(8496号)  
昭和63年度 弁理士業務対策委員会 副委員長  
平成1年度 近畿支部 幹事(副支部長)  
平成1年度～平成2年度 弁理士会常議員  
平成2年度 常議員会第二委員会 委員  
平成3年度～平成4年度 近畿支部 幹事(副支部長)  
平成6年度 地方問題検討協議会 副委員長  
平成6年度 特許制度昂揚普及委員会 副委員長  
平成7年度 地方問題検討協議会 委員長  
平成9年度 情報企画委員会 副委員長  
平成11年度 近畿支部 幹事(副支部長)  
平成11年度～平成12年度 中央知的財産研究所 副所長  
平成13年度 日本弁理士会副会長  
平成15年度 選挙管理委員会 副委員長  
平成17年度 中央知的財産研究所 副所長  
平成19年度 インターン制度検討委員会 副委員長  
平成21年度～平成22年度 日本弁理士会常議員  
平成21年度 常議員会第二委員会 委員  
平成22年度 常議員会第一委員会 委員

#### 賞

平成4年 弁理士会特別功労表彰  
平成10年 弁理士会特別功労表彰  
平成14年 日本弁理士会特別功労表彰  
平成15年 日本弁理士会永年功労表彰  
平成21年 弁理士制度110周年記念式典特別功労者表彰  
平成23年 日本弁理士会特別功労表彰

#### 受章に浴して

この度、平成27年度春の叙勲・褒章制度において、旭日双光章の榮に浴し、身に余る光榮に存じます。これも特許庁、日本弁理士会、関係弁理士団体をはじめ、お付きあい、御指導頂いております弁理士の先生方、その他多くの皆様方の、御支

援、御指導、御援助の賜物と深く感謝致しております。

また、この度の受章にあたり、多くの皆様から、御丁寧な祝意のお言葉をいただきまして、大変有り難く、心より御礼申し上げます。

昭和54年（1979年）の弁理士登録から、3年間の企業勤務も含め、特、実、意、商を中心とする弁理士業務に励むとともに、さらに弁理士会近畿支部、及び本会における各種会務に関わらせていただきました。そのため、対顧客相手の事務所業務と共に、もう一つの弁理士業務である会務において、事務所の個別業務では経験できない種々の会務を経験させていただき、弁理士会全体として果たさねばならない弁理士業務（全般）を種々経験させて頂きました。そのため、結果として、個別のお客相手の弁理士業務の他に、全体としての弁理士（会）のために、わずかですが、働くことができたことは、大きな喜びとするところであります。

これから、どの程度、広い意味での弁理士業務を続けることができるか定かではありませんが、今回の榮を機に、いささかでも、御恩返しを、できればと、思っています。今後とも、どうぞ皆様の御指導、御支援を、よろしく、お願いいたします。



## 瑞宝小綬章 (通産行政事務功勞)

ないとうてるお  
内藤 照雄

### 学歴・職歴

昭和 43 年 3 月 芝浦工業大学電気工学科 卒業  
昭和 44 年 4 月 特許庁入庁  
昭和 48 年 4 月 特許庁審査官 (自動制御)  
昭和 54 年 4 月 特許庁審判官 (第 8 部門)  
平成 4 年 10 月 審査第 5 部審査長 (通信)  
平成 5 年 10 月 審判部審判長 (第 12 部門)  
平成 9 年 1 月 審判部審判長 (第 9 部門)  
平成 12 年 4 月 辞職  
平成 12 年 4 月 信栄特許事務所入所  
(現在) 特許業務法人 信栄特許事務所

### 弁理士会歴

平成 12 年 4 月 弁理士登録 (11618 号)

### 受章に浴して

この度、平成 27 年春の叙勲に浴し、身に余る光栄と感じています。

このことは、特許庁在職中の諸先輩方、及び弁理士登録後における事務所関係者の方々のご指導によるところと存じております。

特許庁在職中には、審査官及び審判官として、出願人の代理である弁理士の方々と対応していた際には特許制度における弁理士の役割がよく分かりませんでした。自分が弁理士になって出願人 (発明者) との打ち合わせを行うことによって、弁理士の役割がようやく理解できるようになったところです。

特許制度における主役は、出願人 (発明者) です。主役である出願人 (発明者) をどのように引き立たせるかが弁理士の仕事です。

これからは、出願人 (発明者) をより引き立たせる弁理士でありたいと思っております。

皆様には、今後ともに、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



## 瑞宝小綬章 (通産行政事務功労)

はし もと とら の すけ  
橋 本 虎 之 助

### 学歴・職歴

昭和 44 年 3 月 京都工芸繊維大学大学院修士課程修了 (工学修士)  
昭和 45 年 4 月 通商産業省 (現在の経済産業省) 特許庁入庁  
昭和 48 年 4 月 審査第三部審査官  
昭和 56 年 4 月 外務省に出向 (在インド日本国大使館一等書記官)  
昭和 62 年 10 月 審判部審判官  
平成 5 年 7 月 審査第三部審査長  
平成 7 年 6 月 タイ国に派遣  
(タイ工業所有権情報センター協力事業チーフアドバイザー)  
平成 9 年 7 月 審判部審判長 (部門長)  
平成 10 年 10 月 特許庁退職  
(現在) 橋本総合特許事務所 所長  
グローサクストコンサルティング株式会社 代表取締役社長

### 弁理士会歴

平成 20 年 弁理士登録 (15865 号)  
平成 22 年度 知財経営コンサルティング委員会 副委員長  
平成 23 年度～平成 24 年度 知財経営コンサルティング委員会 委員長  
平成 24 年度～平成 26 年度 研修所 副所長  
平成 25 年度～平成 26 年度 知的財産価値評価推進センター 副センター長  
平成 25 年度～平成 26 年度 知財経営コンサルティング委員会 副委員長  
平成 26 年度 関東支部 副支部長  
平成 27 年度 日本弁理士会副会長

### 賞

平成 25 年 日本弁理士会特別功労表彰

### 受章に浴して

この度は、平成 27 年春の叙勲の栄に浴し、身に余る光栄に存じております。  
これもひとえに、特許庁在職中にお世話になりました皆様、弁理士として支えていただいた日本弁理士会の皆様のご支援とご高配の賜物と深く感謝申し上げます。  
思い起こしますと、特許庁在職中は、処理期間短縮等に向け審査・審判業務に取り組んだこと、明日の特許行政・産業行政に向けて熱い議論を交わしたこと、産業財産権分野の国際化の中で国際業務に携わったこと、外務省に出向して在インド日本国大使館一等書記官として日印経済関係緊密化に汗を流したこと、JICA のタイ工業所有権情報センター協力事業でチーフアドバイザーとして、タイ商務省知的財産局で局長をはじめタイ関係者、日本側関係者と協力してプロジェクト方針・推進計画をとりまとめ、実行したこと、通商産業省 (現在の経済産業省) 生活産業局等で産業行政等に係わったこと、技術研究組合医療福祉機器研究所で研究開発部長として医療福祉機器開発を企業・医療機関・大学等と協力して推進したこと等、様々な業務を経験してまいりました。こうした経験や知見が現在の弁理士業務の基盤として息づき、進化を続けているのを感じます。  
今後とも弁理士として、経済及び産業の発展に寄与していくように努力してまいりますので、よろしく願い申し上げます。

# 褒章受章者の横顔



## 黄綬褒章（弁理士業務功労）

くぬぎ たえこ  
功力 妙子

### 学歴・職歴

昭和 37 年 東京電機大学工学部電子工学科 卒業  
（現在） 功力国際特許事務所

### 弁理士会歴

昭和 51 年 弁理士登録（8104 号）  
平成 6 年度 途上国人材育成協力委員会 副委員長  
平成 9 年度 海外協力委員会 副委員長  
平成 10 年度 海外協力委員会 委員長  
平成 11 年度 常議員会調整委員会 委員  
平成 11 年度 常議員会第二委員会 委員  
平成 11 年度～平成 12 年度 弁理士会常議員  
平成 12 年度 常議員会第一委員会 委員  
平成 14 年度 海外協力委員会 副委員長

### 賞

平成 11 年 弁理士会永年功労表彰  
平成 13 年 日本弁理士会特別功労表彰

### 受章に浴して

この度は、平成 27 年春の褒章におきまして黄綬褒章の栄に浴することとなり、身に余る光栄に存じます。また、多くの皆様方から心温かなご祝意を賜り厚く御礼申し上げます。

これも偏に日本弁理士会をはじめ、多くの皆様方のご支援とご高配の賜と心から感謝申し上げます。

私は、国立研究機関の研究者としての世界からこの知財の世界へ入り、最初は両世界の相違に戸惑いを覚えたものです。また、家事や育児と仕事との両立に心を砕きつつも、家族や事務所員、弁理士仲間の支えにより弁理士業務に励むことが出来ました。

日本弁理士会の活動につきましては、これまで可能な限り参加させていただきました。一方で、このような会務以外に、アジア地域からの留学生への研修等の ODA による活動等、国際的な知財活動をさせていただくとともに、大学の技術系学生に対する講師活動、研究者や技術者に対する研修等、国内外で永く活動させていただくことが出来ました。このような機会を与えてくださったことに深く感謝申し上げます。

今後とも業務に励みたいと考えております。これまで同様、皆様方のご芳情を賜りますようお願い申し上げます。